

議会だより

6月議会は6月13日から20日にかけて行われました。6月議会は会派から4人ということで、3月議会で質問に立ちましたので残念ながら一般質問はできませんでした。この議会はまさしくがれき問題を中心とした議会となりました。前号に3月の議会報告が間に合いませんでしたので、質問項目は以下の通りでした。尚、9月議会は会派の代表質問を行う予定です。ぜひ一度傍聴にいらして下さい。



- 1、 公共施設マネジメント方針について
- 2、 借金時計について
- 3、 水ビジネスと上下水道局の新設について
- 4、 環境未来都市とグリーンアジア国際戦略特区の指定について
- 5、 フィルムコミッションの体制強化と観光行政の推進について
- 6、 健康づくりと介護予防について
- 7、 老朽化したひまわり学園など障害者施設の建て替えについて
- 8、 若松区のまちづくりについて(交通不便地域のおでかけ交通について)

● 若松の軍艦防波堤の説明看板が設置されました。ぜひ一度ご覧下さい。

議員になって間もないころ「朽ち果てかけた軍艦防波堤をなんとか残してほしい」とご相談を受け、港湾局に修復をはかっていただき今日までなんとか形状を残している軍艦防波堤ですが、わざわざ東京他遠方からも尋ねてこられるのに説明看板もなくさみしい限りでしたので新たにお願いし看板が設置されました。歴史の1ページに思いをはせてみてはいかがでしょうか？



● 提案していた「上下水道局」が新設されました。

以前から取り上げてきた海外水ビジネスの事業が好調に進んでおり、更に市の収入増につながるべく、市民の皆様の利便性向上、行財政改革の中での効率性のアップを目指して上水道と下水道の部門を統合してはどうかと質問要望しておりましたが、予算議会で議案が上程され、この4月から新たに「上下水道局」ができました。組織がかわり最初は少しとまどいがあるかも知れませんが徐々にその成果を出してほしいと願っています。

7月臨時議会 震災がれきの受け入れについて

この7月18日、19日の臨時議会で宮城県石巻市のがれきを受け入れる為の予算が全会一致北九州市議会全員の61名で可決されました。

前回ニュースレターを発行して以降、このがれき問題で本当に悩ましい数ヶ月を過ごして参りました。私のまわりは圧倒的に「一日も早く受け入れるべき」とのご意見が多かったのは事実ですが、それでも一部心配の声や、市外の方からのそれは辛辣な反対派の方の電話などを受け、改めてこの問題について議員として、また6歳の子どもを持つ母親として自分なりに慎重に考えました。あの衝撃的な大震災から1年と数カ月、被災された方々は今も山積みされたがれきを毎日目にしながら生活をしておられます。私自身も昨年と今年の4月、2度被災地を訪れましたが、いまだ膨大ながれきの山と、更にがれきの置き場がないために壊されず無残な姿で学校や廃屋がそのまま残っている状況を見て、がれきの山を1年以上見続けながら生活する事がどんなに精神的につらく苦しいことか想像しただけでも涙がでました。またいつ発火するかもわからないがれきの近くで、わが子と同じようにかわいい子どもたちが生活しており、一日でも早く精神的にも環境的にも改善してあげたいとそう思いました。また誤解によってその地域の方々が差別や偏見を受ける事のないようにしなくてはならないとも思いました。ただ感情的な問題だけではすみません。まず震災がれきの広域処理の必要性と北九州市民の安全、安心の確保、広域処理に伴う風評被害への懸念など、わがまちで安全に引き受ける事ができるか、この間議会でもさまざまな角度から論議が行われてきました。今回受け入れるがれきはあくまで通常の廃棄物相当という限定をしており、国が安全としている食べ物の基準以下のものですが、それでも慎重に検討し、そして試験焼却も行われました。私も環境建設委員会委員長として、あの騒然とした中行われた試験焼却の現場にも立ち会い、自ら放射能の数値がこの北九州市とほぼかわりないことも確認しました。また焼却の結果も特に問題のないものでした。

8月には本格焼却が始まる予定ですが、今後も安全性を常に確認しながら慎重に進めてまいります。皆様のご理解を何卒よろしくお願い申し上げます。



災害から身を守るために日頃の取り組みを

今年の梅雨もまた悲しいことに大雨が日本のあちこちに甚大な被害をもたらしました。かろうじてこの北九州では大きな被害は出ませんでした。九州のあちこちでこれまでに経験のない大雨のため川が氾濫し、家や車がつかり流されている映像を多く目にし、あまりにあちこちで大変な状況に胸が苦しくなる思いです。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた皆様には心からお見舞いを申し上げます。

私たちの会派としても市に対してできる限りの支援を要望し、今後個人的にもできるボランティアなどの協力ができればと思っています。

自然災害はいつどこで起こるかわかりません。私自身も防災対策は大変重要であるとの認識から、これまで何度も関係する質問をして参りましたし、本市としてもかなり防災対策に力を入れています。予測不能な自然災害をすべて防ぐことはできません。

最近では「減災」という言葉がよく用いられますが、いかなる対策をとったとしても被害は生ずるという認識のもと、限られた予算や資源を集約的にかけることで、結果的に被害の最小化を図ろうというのですが、何よりも市民の皆様の日頃の取り組みが減災につながります。

できるだけ防災訓練に参加したり、災害情報を収集し、各家庭でいろんなケースを話し合っておくことも重要だと思います。